
第3回神通川流域有識者会議 議事要旨

開催日時：平成 29 年 2 月 2 日（木）13:00～15:10

場 所：富山河川国道事務所 3階 大会議室

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 出席者の紹介

4. 議事

① 神通川流域有識者会議委員構成について

② 神通川水系河川整備計画の策定に向けた現状と課題

・河川行政に関する最近の話題

・神通川水系河川整備計画策定に向けた現状と課題

③ 住民への意見聴取（アンケート調査）の実施結果

5. その他

6. 閉会

○議事

① 神通川流域有識者会議委員構成について

② 神通川水系河川整備計画の策定に向けた現状と課題

・河川行政に関する最近の話題

・神通川水系河川整備計画策定に向けた現状と課題

③ 住民への意見聴取（アンケート調査）の実施結果

<① 神通川流域有識者会議委員構成について>

- 神通川流域有識者会議 会議規約（委員名簿一部改正案）は改正案のとおり承認された。

<② 神通川水系河川整備計画の策定に向けた現状と課題>

（座長）

資料-2の P2 で、流下能力が不足していると示しているのは、基本方針目標と整備計画目標のどちらを示しているか。

（事務局）

- 基本方針目標に対して不足していることを示している。

（座長）

- 資料-2の P4 の堤防整備の進捗と整備計画目標との関係はどうなるのか。

(事務局)

- 次回で示す予定の整備計画目標を安全に流すために必要な整備箇所について対応していくことになる。

(委員A)

- 想定最大規模という新たな考え方が出てきた中で、整備計画の目標はどのようなものかを考えているか。現在までの堤防整備状況と侵食が発生しやすい特徴などを踏まえて、どのようなメニューを考えていくのか。

(事務局)

- 整備計画目標、目標を達成するためのメニューについては次回提示する予定である。神通川では流下能力の確保が重要なテーマではあるが、過去の被災状況を踏まえると急流河川対策も重要なメニューであると考えている。そのため、今後30年間の整備を決めていくにあたり、量的整備と急流河川特有の被災に対する整備のバランスを図った整備内容を提示したい。

(座長)

- 資料-2のP9において、危機管理型ハード対策として当面5年間で対策延長約34.2kmの整備を予定している旨説明があったため、整備計画で想定している概略の整備メニューをご説明いただくと、議論にあたってイメージしやすいと考えるがいかがか。

(事務局)

- 整備計画は概ね20年～30年を想定した整備内容を想定している。整備目標・内容等については、次回に議論をお願いしたい。

(座長)

- 例えば、「整備計画による整備期間で、堤防整備率は概略何%になる」など、大まかでもよいので、整備後の状況が分かる値などを示せないか。

(事務局)

- 具体的な数字等については次回提示したい。

(委員B)

- 資料-1のP25で概ね5年で実施する取組のなかに「小中学校等における水災害教育を実施」とあるが、小中学校では月に1回地震・火災に関する避難訓練を行っているものの、水害を想定した避難訓練をあまり行っていないのが実態である。富山市小中学校校長会もしくは教育委員会に働きかけてもらうことで、水害を想定した避難訓練を追加することが可能になると考えられる。
- さらには、事務所からの出前講座を教職員にして頂けると、5年で実施する上では早期に実現可能な方法と考えられる。

(事務局)

- 今後の取組の参考にさせて頂く。
-

(座長)

- 今後は想定最大規模のハザードマップが公表されるため、広域的な避難や体制構築が求められる。従来の方法からどこが新しいか、工夫点を示すと良い。

(委員C)

- 資料-1のP4で、想定最大外力の537mmはどのような根拠か。

(事務局)

- 資料-1のP4の表中にあるように①北陸地方で発生した過去最大の降雨データ、流域の地形状況から神通川で起こり得る雨量と、②神通川の1/1000確率雨量を比較して、大きい方を採用している。神通川では①による流域平均2日雨量537mmとなる。

(委員C)

- 富山市から町内会で自主防災組織を作ってほしいとの依頼があった。避難を考えるうえでは、降雨量、決壊位置、到達時間の情報提供をお願いしたい。夜であれば雨の中を非難するのが難しく、2階に避難することも考えられるので早めの情報提供が大切と考える。

(委員A)

- 資料-1のP4で、264mmとは基本方針の目標か。

(事務局)

- その通りである。

(委員A)

- 資料-2のP14で、樹木管理はどのように実施するイメージか。10年ごとに全川を伐採するイメージか。

(事務局)

- 樹木の生長スピードを勘案して必要なところを切っていくことを考えている。直轄区間全体で見れば、毎年どこかで伐採をしているイメージである。

(委員D)

- 資料-2のP18で、取水障害は発生していないとのことであるが、直轄管理区間のことを示しているか。
- また、神三ダム下流で $2.267\text{m}^3/\text{s}$ の放流と記載されているが、ダム直下のことを示していると理解してよいか。

(事務局)

- いずれもその通りである。

(委員D)

- 資料-2のP13で、過去は砂利採取をしていたが現在はしていないということか。
-

(事務局)

- 神通川では砂利採取規制計画を策定しており、河床の状態と橋梁等構造物への影響を勘案しながら砂利採取可能範囲を指定している。その範囲で需要があれば採取されている状況である。

(委員D)

- 上流部は経年的に低下傾向であるが、急な勾配が関係しているのか。

(事務局)

- 扇状地河川の一般的な特徴として、扇頂部は掘れやすく、扇端部は安定もしくは若干堆積する傾向がある。上流側からの供給土砂にも影響するが神通川も同様の傾向がある。

<③住民への意見聴取（アンケート調査）の実施結果>

(委員A)

- 治水に関して、資料-3のP4において、「防災意識の啓発」が必要という意見が少ない。しかしながら、河川管理者としては、様々な洪水による浸水発生時の行動の例を見るに住民の防災意識が低いという認識を持って啓発に取り組むことが必要であろう。どこまで住民の方の防災意識が低いかということに対し、危機感をもって取り組む必要がある。その進め方については、他の委員もおっしゃるように小学校への取組などを通じての大人へのはたらきかけなども一つの方法と考える。
- また、同じく資料-3のP4において、「現状十分」と答えられている方が多くなっている。神通川上流には電力ダムがあるが、一般の方はそれで安全と思っているのではないか。そのようなアンケートの結果も踏まえ取組を進めていくべき。管轄の問題を含むために難しい課題ではあるが河川管理としてそれぞれの立場で意識が必要ではないか。

(事務局)

- ご意見を参考にさせて頂く。整備目標やメニューを示した段階で議論させて頂きたい。

(委員E)

- 環境に関して、資料-3のP6において良好な水質を選択している方が多い。近年では、萩浦橋の水質もA水準で推移している。ただし、富山湾の水質という面からみれば、水量が多い神通川からの負荷量の影響が大きい。富山湾の動植物を守る観点では、資料-2のp33に「現状の水質の維持に努めることが必要」とあるが、さらに良くするという記載方法も考えられるのではないか。

(座長)

- 総負荷量の削減に着目する視点もある。

(委員F)

- 失われた自然があることを認識してほしい。昔の状況がよく分からないまま今に至っているが、分かる範囲で魚の生息状況の経年変化を整理しておいてはどうか。

(座長)

- 自然と利用は同時に生じているため、例えば湿地では、環境的に楽しむ場所でもあるし、洪水を滞留させる場所でもある等、1つの目的だけではなくいくつかの視点で対応していくことが重要と考えられる。

(委員B)

- 今回のアンケートは、比較的関心の高い方が回答していると思われる。関心を持っている方が「きれいな川」を目指してほしいというのは寂しい感じがする。多様な生物環境なども含めた豊かな河川イメージを持って欲しい。
- 環境教育が河川整備計画の取組に入るのであれば、河川は点ではなく、線でつながっているという視点を伝えることが重要である。小中学生への出前講座もあるが、教職員や大人向けも実施してはどうか。
- 黒部川では、流域全体を水の博物館と捉えた「みずはくツアー」というイベントが行われており、点ではなく流域全体として川を知る良い機会になっている。市民の理解促進にはこうしたイベントが有効と考えられるため、参考になるのではないか。

(座長)

- 流域全体の視点は重要である。

(委員E)

- 資料-1のP4に河川整備の基本となる降雨と想定最大規模の降雨のふたつあるが、今回の河川整備計画ではどちらを対象にするのか。

(事務局)

- 河川整備計画は河川整備基本方針の段階的な整備の目標のため、河川整備基本方針の目標達成に向けた途中段階というイメージである。

(座長)

- 想定最大規模の降雨は危機管理として避難を考える上での情報として提供されていると捉えるのが良い。

○その他

第4回神通川有識者会議の日程については、後日委員各位へ日程調整の案内をする。

－ 以 上 －